小野小学校旧屋内運動場のあり方に係る今後の方向性について
～小野小学校旧屋内運動場個別施設計画～

小野小学校の旧屋内運動場は、昭和 38 年に隣接する小野中学校と共有する屋内運動場として建設されたが、平成 8 年度に小野中学校の屋内運動場を新たに建設したため、小野小学校専用の屋内運動場となった。

しかしながら、平成 28 年 3 月に小野中学校が閉校となったことから、建設年度が新しく耐震性を有している中学校の屋内運動場を小野小学校へ転用し、これまで使用してきた屋内運動場の使用を中止した。

以降、旧屋内運動場は使用されることなく、建物の老朽化も進行していることから、今後の活用について学校や地域の課題となっている。

◆小野小学校旧屋内運動場の概要

- 1 施設名 小野小学校旧屋内運動場
- 2 所在地 宇部市大字小野字宮脇 8 3 1 7 番地 2 他
- 3 構造及び面積 S+RC 造 延べ床面積 649.2 m²
- 4 建物概要及び構造概要

本建物は、昭和 38 年に竣工し、桁行 31.28m、張間 18.60m、地下 1 階、地上 2 階、軒高 7.00m の屋内運動場。

建物の構造種別は地階鉄筋コンクリート造、地上 1 階鉄骨鉄筋コンクリート造、地上 2 階鉄骨造で、X 方向（桁行）はラーメン構造及びブレース構造、Y 方向（張間）は山形ラーメン構造。

柱、梁は山型鋼を用いたラチス梁で構成されており、屋根は長尺カラー鋼板瓦棒葺き、外壁はコンクリートブロック下地モルタル仕上げ。

平面形状はほぼ整形であるが、立面形状は東側部分と西側部分に敷地高低差がある傾斜地に建つことから、東側 2 層、西側 3 層の不整形な建物となっている。

◆小野小学校旧屋内運動場の耐震性能等について

平成 21 年度に耐震診断を実施した結果、旧屋内運動場は「地震の振動および衝撃に対して倒壊し、または倒壊する危険性が高い状態」であることが判明した。

診断結果は、以下のとおりである。

なお、目標とする構造耐震判定指数値（以下「Is 値」という。）は、0.7、保有水平耐力に係る指数（以下「q 値」という。）は、1.0 とする。

・ X方向（桁行方向）

- 2 F（S造） : Is 値は、0.56 となり、目標値を下回っている。
q 値は、1.03 となり、目標値を上回っている。
- 1 F（SRC造） : Is 値は、0.53 となり、目標値を下回っている。
q 値は、1.33 となり、目標値を上回っている。
- B 1 F（RC造） : Is 値は、0.19 となり、目標値を下回っている。
q 値は、0.45 となり、目標値を下回っている。

・ Y方向（張間方向）

- 2 F（S造） : Is 値は、0.38 となり、目標値を下回っている。
q 値は、0.64 となり、目標値を下回っている。
- 1 F（SRC造） : Is 値は、0.56 となり、目標値を下回っている。
q 値は、1.41 となり、目標値を上回っている。
- B 1 F（RC造） : Is 値は、0.22 となり、目標値を下回っている。
q 値は、0.54 となり、目標値を下回っている。

◆小野小学校旧屋内運動場の今後の取扱い

現在使用している屋内運動場は、新耐震基準施行後の平成8年に建設された比較的新しい施設であり、引き続き使用していくことに支障はなく、全校生徒20数名が利用する施設としては十分な施設である。

一方で、小野小学校旧屋内運動場は老朽化が著しく、耐震性を有していないため、長期間にわたって使用中止の状態が続いており、治安・防犯上の管理が難しいほか、傾斜地に建っていることから、常に地震等による倒壊の危険性を抱えている。

当該施設はグラウンドや国道490号に隣接しており、児童や通行人の安全確保のためにも、解体撤去を行う必要がある。

◆解体撤去後の跡地利用について

解体撤去後は更地とし、グラウンドの一部として利用する。

◆概算事業費

解体撤去工事 31,250 千円・・隣接の倉庫、附属室の解体を含む

◆スケジュール（予定）

令和6年10月～令和7年3月